

## RNAサンプル および DNAサンプルの反応性確認

Loopamp RNA/DNA増幅試薬 D は試薬中に逆転写酵素が含まれているため、DNAだけではなくRNAをターゲットとした場合にもワンステップで増幅・検出を行うことが可能です。

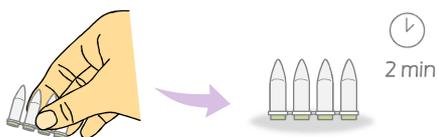
既に性能が確認されたLAMPプライマーと Loopamp RNA/DNA増幅試薬 D を用いて、RNAサンプル および DNAサンプルを測定し得られた Tt値を比較したところ、同等の反応性が確認されました。

### 操作方法 (Loopamp RNA/DNA増幅試薬 D)

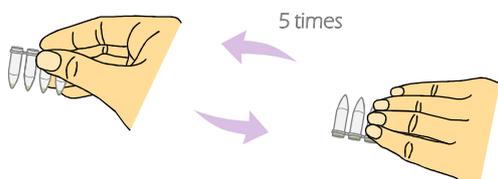
反応チューブ (Dried RNA/DNA Amplification Reagent) にプライマーミックスを 15.0  $\mu\text{L}$ ※<sup>1</sup> ずつ分注します。

サンプル溶液 又は コントロールを 10.0  $\mu\text{L}$ ※<sup>1</sup> ずつ添加します。

フタを閉めた後、反応チューブを転倒して溶液をフタに移し転倒した状態で2分間 (必要に応じて氷上にて) 放置します。



反応チューブを 5回転倒混和後、スピンドアウンします。



リアルタイム濁度測定装置 又は インキュベーターの反応ブロックにセットして反応をスタートさせます (60~67°C、30~60分間※<sup>2</sup>)。

酵素失活 (80°C、5分間 又は 95°C、2分間)※<sup>3</sup>

濁度測定・判定

※<sup>1</sup> 最終LAMP反応液量が 25.0  $\mu\text{L}$  となるように調製します。

※<sup>2</sup> 設計したプライマーによって至適条件が異なります。

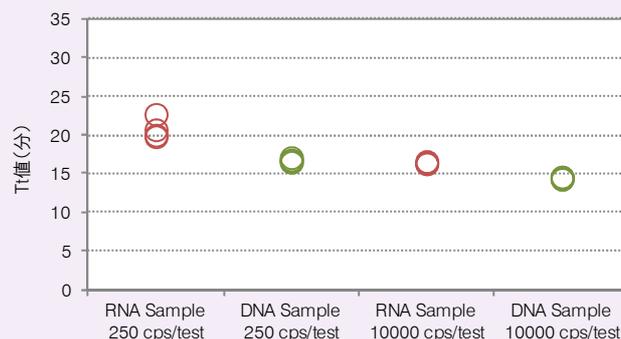
※<sup>3</sup> リアルタイム濁度測定装置では自動処理されます。

### 試験方法

プライマー	反応温度	反応時間
A型インフルエンザ(Flu A)検出用	62.5 °C	35分

上記のLAMPプライマーを用いて既知濃度のRNAサンプル (RNA Sample: 250、1,000 copies/test) および、鋳型RNAを逆転写して合成したDNAサンプル (DNA Sample: 250、1,000 copies/test) を既定の方法で測定しました。

### 測定結果 (社内データ)



製品の使用上又は取扱い上の注意については、使用説明書をご参照ください。